

愛川町の取組



愛川町全体で推進する小中一貫教育の中で、同じ中学校区の小・中学校3校が共通の「めざす子ども像」を共有し、義務教育9年間を見通した教育課程の下、子どもたちの「生きる力」を育成している。愛川東中学校区では、「夢に向かって自立して生きる児童・生徒の育成～共に挑戦一歩ずつ 瞳に夢とあこがれを！～」と掲げ、インクルーシブな学校づくりをベースに、「授業改善」や「教員交流指導」を推進しながら、学びの確かな継続のため取り組んでいる。

各校では、「子どもの声を大切にしながら、主体的・対話的で深い学び」の実現のため校内研究を推進しながら、校内研究に相互参加し、参観・協議を行うとともに、小中合同研修会を設けることで、小中のつながりを大切にしながら授業の充実を図っている。

研究テーマ

菅原小学校

「思いをカタチに ～考えよう・伝えよう・深め合おう～」

【研究内容】

- ・国語科を中心に全学年・特別支援学級・日本語指導教室が連携し、児童の「思いをカタチにする」表現力の育成に取り組む。読む・書く・話す・聞くの領域は限定せず、それらに関連付け、各学年の実態に応じた表現力の育成を図る。

【成果】

- ・児童が互いの考えを認め合い、ペアやグループで質問・助言しながら文章表現を練り直す姿が見られた。
- ・表現の工夫（修飾語、比喩、語順など）を意識し、「もう一度書き直してみよう」と主体的に文章を推敲する姿が見られた。
- ・読み取った本文や図表を根拠にして、自分の考えや主張と理由を関連付けて述べるができる場面が見られた。
- ・活動のルールや見通しを明確にし、ICT機器や視覚教材、動作化などを取り入れたことで、「やってみたい」「伝えたい」などの主体的に学習に向かう児童が増えた。
- ・「体験と言葉を関連させること」「主張と根拠の整合性を意識すること」などの課題が明らかになり、校内で共有する土台が整ってきた。



研究テーマ

愛川東中学校

東中「未来の学校」ビジョン

【研究の内容】

- ・対話の場面を意図的に取り入れた単元づくり、授業づくり
- ・公開授業研究（第1回：3年社・理・英、第2回：1年理、特別支援学級）およびそれに向けての指導案検討、プレ授業
- ・指導案検討からプレ授業の段階では、本校職員だけでなく玉川大学の笠原陽子先生、県教委、県央教育事務所、町教委から指導主事をお招きして指導助言をいただいた。

【成果】

- 授業者個人の取組にとどまらず、教科を越えて職員全体が自分の授業づくりと結び付けて研究にあたり、各自の実践に生かすことができた。また、生徒は学習場面で仲間との対話を経験することで、自分の考えを言語化し表出することと他者の考えを受容し理解することの必要性を実感していた。別の場面でも発揮できる資質・能力の獲得に手ごたえを感じた。



研究テーマ

中津小学校

「どの子ども安心して、居心地のいい学ぶのが楽しい学校」

【研究の内容】

- ・体育を通して、特別支援学級や日本語指導教室に在籍する児童を含むすべての児童を対象に、研究主題の実現を目指した授業実践を行う。（皆で授業を考える、複数の授業者、スモールステップ、教具の工夫、児童同士の学び合い、子どもに聴く等...）

【成果】

- ・児童がお互いを認め合ったり、助け合ったりするようになってきた。
- ・教材・教具や環境の調整により、安心できる雰囲気ができあがってきた。
- ・児童が体を動かす楽しさを知り、活動に進んで取り組めるようになった。
- ・複数の教師が偏りなく指導を行うことで「通常の学級の子どもたちが、特別支援学級の先生と」「特別支援学級の子どもたちが通常の学級の先生と」という関係が自然に深まった。
- ・主体的に動けるようになった。
- ・特別支援学級の児童が体育に参加できたことで、他教科でも参加できるようになった。

